

1978.

義太夫

義太夫協会々報
第14号

昭和53年1月17日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館 TEL(541) 5471

学校教育と義太夫節

会長 吉川 英史

中学校の音楽教育の改訂案で、現行の鑑賞教材である義太夫節が除外されてしまったことに対し、義太夫協会は文部大臣に意見書を提出したことは、前号で報告した通りである。しかし、「遅かりし由良之助」で、既に除外は決定済みになっていた。その除外の理由は明確でないが、左記の三点が考えられたようである。

一、全体に生徒の負担を軽くするという今回の基本方針に従って、教材の数を少くした。(等曲も二曲が一曲に減少)。

二、従来の現場の教師などの反響によれば義太夫節は生徒に難解である。

三、現在は高校の進学率が増大し、高校は義務教育に近くなった。従って、義太夫節などは高校で扱うようにすればよい。右の考え方は、一応うなずけるようであるが、わたしは、これらの考え方に對して、疑問を持つ。

一、生徒の負担を軽くするということは、結構な大義名分であるが、軽くしなければならぬのは、詰め込み主義の知識教育であって、音楽ではないはずである。

二、義太夫節が難解だというのは、その扱い方が悪いからであろう。元来、鑑賞教材は、どの程度まで教えるか、如何に教えるかが問題である。大学で教える場合、高校で教える場合、中学で教える場合、同じ「三十三間堂」でも違うべきである。中学では注意して聞かせるだけでも良い。くどくどしく理屈を並べたてる必要はない。どうも知的な事柄を教えずぎるのではないだろうか。

三、中学校ではむずかしいから高校で教える。それでも悪くはないかも知れない。それが単に今回除外した言いわけでなく、本当に約束されているのなら。

しかし、考えてみると、小学校の音楽教育が問題なのではなからうか。もっと小学校でわらべ唄・箏や三味線に慣れさせておけば、中学校では、その継続、その発展として教育ができるのだが、現状では、中学校で初めて邦楽に接するようなことになっている。

とにかく、指導要領の改訂には不満であるが、わが協会としては、従前通り、中学校を含めて、義太夫節の普及と啓蒙に努力しなければならぬと考える。



頌 春

副会長 豊 沢 仙 広

明けましておめでとうございます。

師走恒例の第七回心身障害児の為の慈善公演は足の踏場もない程の盛況でございました。役員の皆様には、協会として年に一度のお願いですからと切符を送らせて頂きましたところ、沢山の御寄附を送って頂き、赤字を出さないで義捐金が出来ましたことは初めてでございます。その他御来場の上御寄附賜りました会員の皆様ならびに御虫眞の方々には厚く御礼申し上げる次第でございます。

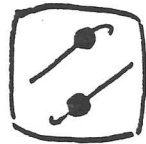
義太夫教室は、昨年も五十人の受講生が集まりました。東京は義太夫ブームになって、国立の文楽公演も、土・日・祝日はいつも補助椅子が出て居ります。

義太夫節の発展の為と共に、義太夫を好きになって、日本人らしい日本人、祖先を大切に喜こんで親孝行して下さる気持を持ってもらいたい……と、そんなこと、今の世の中には通じませんか？ お笑い下さいませ。

文化庁助成の学校巡演も、役員の努力で、三味線を知らない生徒や先生方もぼつぼつ古曲の良さを理解して下さって来たようです。協会も学校巡演のお申し込みをお待ちして居ります。

さて、後継者をつくる本牧亭公演は、相変わらず年間二百万くらいの赤字で、出演者も出演料の半分を協会に寄附している状態です。十二月二十二日に文化庁に参り、文楽協会と同じように義太夫協会も文化財に指定して頂きたいと嘆願して参りました。これが実現出来たら、後継者づくり、義太夫節発展に大変な成果が上るので。吉川会長の御指導のもとに、是非実現出来ませう、私の生命ある限り努力する覚悟でございます。

昨秋、協会事務所に突然、東京都の法人係の人が査察にみえましたが、こんなに立派な適切な運営と経理は芸界にはめずらしいと、おほめの言葉を頂きました。事務局員は一人です。常務理事、事務局長、経理部長もみな無報酬で努力しているのです。何と嬉しいことかと、役員に頭の下る思いです。義太夫協会をいやが上にも立派にして、賛助会員の皆様に毎年会費を納めた甲斐があったと喜んで頂く日の早かれと、役員一同努力を続けます。どうぞ皆様の義太夫協会をお忘れなく、毎月二十日・二十一日の本牧亭公演を、我が趣味の友として、新人・後継者の上達ぶりを聞いて頂きたく、伏してお願ひ申し上げる次第でございます。



東をどり

見 聞

内野 三 恵

秋の「東をどり」を、ある招きで見せて貰った。家内は何回かみているし、舞踊をするので幕間に色々教えられた。筋書が立派で、確りした解説付である。新橋組合には、こんな豪勢な事のできる資源があり、支援団を持つのか、義太夫協会は何と哀れなことか、と大つぶの涙がでた。

錦秋の候、益々御健勝に……と、鏡花の芸者もの新派を徳富挨拶文を読んでゆくと、「……中心が若い世代と相成りまして、芸の向上と云う事の難しさを痛感して……」とあり私はこの組合もそうか、義太夫協会もそうらしい。芸能全般にそうだし、スポーツでも、相撲だって、プロ野球だって、何だって、新旧交代期に当面して、プレーヤーの卵の気構が変って終って、厳しい芸の修練ができなくなれば、凡ゆる芸能の水準が総体に低下して、名優・名妓・世界記録なんぞ、今後の日本人に、まず期待できまい。

明治三十九年版の坪内逍遙著「新楽劇論」

を読むと団菊亡き後の歌舞伎に絶望し、日本に新楽劇を起さん限り、演劇に於て世界一流国と太刀打ちはできぬと論じ、手がけ、作品も二三発表も公演もされたが、理想の実現はみず終に逝かれた。水谷丈の新生新派も、明治古典と称する代物を取替え引替えやっつけているに過ぎない。

芸妓の諸芸の水準といえ、多分各流の名取以上が要求されるだろう。彼女らの芸能活用の場も、変りもしたが、広められはしまい。「東をどり」タイプは、芸妓健在の喧伝なり、春秋二季の歳事でも祭事でもあらずしく、本来の活動容式ではない。

芸は芸能人と、鑑賞者との相対関係に共鳴があつて成りたつ。大正期あたりから急降下の、日本人が日本古典芸能への支持を放棄しはじめた。芸能者も総じて無気力になった。この頃になつて、慌てて騒いでいる。

東をどりの部門別出演者の数を、ざっと数えると、舞踊 66名、清元 12名、常磐津 22名、長唄 12名、哥沢 12名、囃子 6名、茶道 12名、で概数二百名、師匠筋、世話人、舞台道具方など合算すると三百人、日数が七日間午前午後の大仕事にみ受ける。東京の一地域にこれだけの遊興関係に活躍する集団を擁することは、頗る気強し。

出し物の抄録と鑑賞寸感

- 第一 花がたみ 清元延寿太夫指導 西川右近 振付
- 第二 川開き 哥沢芝金 指導 尾上菊之丞 振付
- 第三 腕久色神送 常磐津六治兵衛 指導 尾上菊之丞 振付
- 第四 風林火山 八木隆一 指導 花屋六左衛門 振付 柳壽輔 作曲
- 第五 芸者姿花扇抄 東をどり会案 西川鯉三郎 構成

第一では、芸の厳しさ、古参新参の格差があらわで、新参のがんばりが楽しかった。

第二、季節外れのためあつて、音無しの花火が、結構な大橋を背景にした夜空に玩具のように、びかっぴかっとする。二人の美女に引張風にされて、いい気なものゝ瀧児が、球の切れの悪い投手のように見える。肥り型女性の男役は体重を落しておく心掛けがある。

第三、腕久が狂乱の末好いた女を殺害に及ぶ型は初見だが、狂態は良かったが、線が細かった。眼がもう一息狂人へと誇張されたら。

第四、骨折り甲斐を感じず終いだつた。女性の関節運動、筋力、体型等のすべてを、充分検討の上の出し物の決定が必須だ。背景は各場とも見事だつたし、背景への照明の変化の妙に感じた。楽劇と楽舞踊、楽詩劇そんなごちゃごちゃした物になつて、戦のイメージは幻想でしかなく、とても信玄の旗標を彷彿する段ではなかつた。

舞踊楽劇の地方としての、各種浄瑠璃及びその伴奏の器楽の調和に、いちばん感銘した舞台の芝居、舞踊、それらの台詩の音階調子と地方のそれが、じつによく合っていた。声楽と伴奏(義太夫でいえば語りと三絃)との音階にづれがあつたら、その伴奏は、もはや声楽に協力するのではなく、声楽を破壊しているのだ。

艶寿会という句会に、「折々の句」として七句を載せ、「東をどりの句」として四句のうちから、紙数上、つぎの句を抄出しておく。

人をつつ肩に落葉の散りかゝる 万葉
大雪と国の便りもをくればせ つる若
秋風が稽古がへりの衾もとに すみ
東をどりの句 から
はや秋の東をどりの頃なりし まり千代
大勢に秋深みゆく稽古かな 小く
急に音立てて軒打つ秋の雨 賈花

みな現代俳句水準の、生活感情のよく出ている素直なよい句だ。短歌のグループも欲しいものだ。古来賓客に待した麗人たちには、大方高い教養があり、舞楽のほか文雅に高名をとどめたものを少しとしない。頼母しい限りである。優雅な道につくことにより、心は自ら浄化される。



豊 沢 猿 三 郎

明けましてお目出度う御座います。

春らしく明るいお話を致しましょう。私は赤坂の師匠の宅へ内弟子に入りました明治末は、元日から大晦迄の義太夫定席が三十余ヶ所有しました。其の配置仕てる俗に五厘という親方が有まして、宮田派（現春駒さんの父）山田屋派の二派で、都新聞（東京新聞）の本紙の中央折目が今より巾広く、六センチ位の上から下迄全部今晚の語り物を書いたものです。一興行（十五日間）で一万人の客を呼んだ朝太夫師匠、小清師匠などは大御所でした。今の様に切符をお願いするので無く、昔で客を呼ぶのです故、皆一生懸命稽古したものです。文楽の相生翁さん（当時小若太夫）、清六さん（政二郎）等、皆赤坂の師匠の所へ稽古を受けに見えました。其の頃、女義の内十三才で真打試験を合格した糸三さん（現糸

三）が、師匠の三福さんの三味線で真を打ってました。此の一座が毎年、正月興行に七福神を出すのです。其の御利益か、仲々人気も有り、客も呼んでました。

終戦後三十余年、東京では七福神が出ません。此度協会から、いつも三番叟や橋弁慶でも無い故、一ツ七福神を稽古仕て上演仕て欲しいと交渉が有りましたので、稽古をつける事に致しました。後世に残す必要も有ますので若手十余名に稽古をつけました所、皆よく覚えてくれましたので、一月の初春興行に上演致す事に致しました。

三味線も来年からは皆に勤めさせますが、取り敢ず今年は、私が出演仕まして大勢を統率する事に致しました。此の七福神の御利益で本牧亭の興行も益々人気上昇すればと念じて舞台を勤めさせて戴こうと思つて居ります。お客様の方々も七福神詣りをなさつたおつもりで、若い美しい本牧の七福神を見て聞いて下さいますよう。

- | | |
|-----|-------|
| 布 袋 | 豊竹公二郎 |
| 大黒天 | 竹本 素丸 |
| 寿老人 | 竹本 綾一 |
| 弁才天 | 竹本土佐菊 |
| 福祿寿 | 豊沢 公佳 |
| 恵比寿 | 竹本素之助 |
| 毘沙門 | 竹本 越若 |

二十日・二十一日両日ともキリにお聞きに達します。お誘い合せ御来場下さい。

〔曲節メモ〕 2

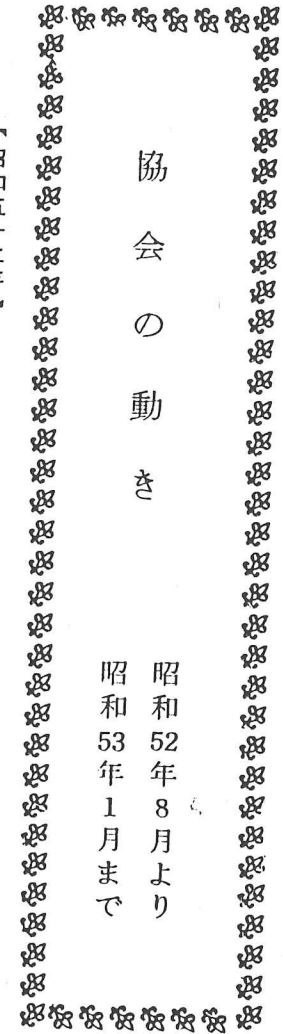
「表具屋節」略して表具、又四郎節とも言う。貞享元禄年間、表具屋又四郎が始めた。岡本文弥の門人とも、井上播磨の門人ともいわれている。その為か、「声曲類纂」に、表具といえる節は又、文弥に似たるものなれど……とある。上品で愁いを含む曲節で、忠臣蔵七段目へ数に入つてお供に立たん、小身者の悲しさは、人に秀れた心体を、見せねば数にはいれられず。玉藻前三段目へ欲に目がくれ悪人の、皇子に従ひ積悪無道、か程邪見の心にも、忘れがたきは恩愛の、捨てし娘はいかがぞと。

「重ね表具」 表具節を発表した時、あまりにもよかつたとみえて、一つのフレーズに同じ節を二つ重ねて荘重さと感情を強調した。又同様に播磨重ねがある。千本桜すしやへ語るにつけて維盛も、栄華の昔父の事、思い出され御膝に、落つる涙ぞいたわしき。

「表具くづし」表具節をくづして、女性の口説等に用いる。堀川お俊のさわりは「そりや聞えませぬ伝兵衛さん、お言葉むりとは思わねど、そも逢いかゝる始めより、末の末迄言交し、……又同形では、新口村のへ凍える手先、懐に温められつ、温めつ……があり、曲節を分解してみると、表具節の特徴が柔らかく使われているのが分る。又竹本には、此の表具節の利用度がかなり高い。（弥）

協会の動き

昭和52年8月より
昭和53年1月まで



【昭和五十二年】

- 8月20・21日 若手盛夏勉強会 20日には八王子車人形参加於本牧亭
- 9月1日 義太夫教室中級三味線コース開講 初級終了者約20名が受講中 於俳優協会稽古場
- 9月8日 東京都教育庁により「法人の業務及び財産の状況に関する検査」が事務局にて行われた。素八理事及び日置事務局長が立会う。教師のための義太夫講習会 於本牧亭
- 9月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭 共団協懇談会及び邦楽連合会 日置事務局長出席 於芸団協
- 10月5日 公演委員会 53年度東京都邦楽演奏会立案を行う。於新小松
- 10月12日 学校巡演 二松学舎大学付属高等学校
- 10月13日 古世根追善会（主催床世話陸会）於雷中会館
- 10月15日 東京都教育庁より「当法人の管理運営については、事業、運営とも適正に行われていると認められた」との通知を受ける。
- 10月18日 企画委員会 東京都邦楽祭、祖先祭、慈善公演等について協議。事務所家賃値上げ（53年1月より）の件は了承 於新小松
- 10月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭 教師のための義太夫講習会 — 東京私立中学高校振興協会私学研究所国語研究会 国語科古典の中の古文の学習指導 於本牧亭
- 10月24日 企画委員会 来年度義太夫教室について協議 於新小松
- 11月5日 学校巡演 多摩中学校
- 11月14日 公演委員会 十二月公演・忠臣蔵について 於新小松
- 11月25日 邦楽連合会 於古曲会
- 11月26日 企画委員会 義太夫教室及びOB会の件、本牧亭月例公演の企画構成について 於新小松
- 12月1日 N H Kに助成金申請書提出
- 12月16日 N H Kより助成金20万円振込
- 12月17日 忠臣蔵総稽古 於新小松
- 12月20日 第七回心身障害児のための慈善公演（共催N H K厚生文化事業団）於本牧亭
- 12月21日 昭和52年お名残り公演 前日同様仮名手木忠臣蔵を総出演にて演奏。キリの七段目は久しぶりの天地会、貫録たっぷり仙広の由良之助、かんざし姿も可憐な駒登久のお軽、誠実な公純の平右衛門等出演者の熱演で、楽しい年忘れとなった。於本牧亭
- 12月27日 昭和52年度祖先祭 11時半、本堂にて読経後、懇談会。昨年は滞米中だった会長より「来年は、車人形や結城人形と提携して文化財の助成をうけたい。飛躍的な年にしたい」との挨拶。副会長は「何事も舞台がなければ勉強はできない。53年は舞台を励もう」と力説。亦乃太夫常務理事より慈善公演会計報告と、新正会員、豊沢みどりの披露が行われた。
- 12月28日 仕事おさめ
- 1月9日 仕事はじめ
- 1月17日 会報第14号発行

【昭和五十三年】



浄るり歌舞伎の馬

竹本 弥乃 太夫

今年は何年、悪名高い丙午（ヒノエウマ）は、前回の午年即ち十二年前であった。十十二支の組合せて、12と10の最小公倍数を求めれば60、だから六十年に一度廻ってくる。これは何も丙午に限ったわけでない。今年の戌午（ツチノエウマ）だつて六十年先に廻ってくる。さて今年の干支の馬に因み、馬が出てくる狂言を思出してみた。芝居には沢山の動物が出てくる。中でも馬は多いようである。横道にそれるが、此間テレビを見ていたら、忠臣蔵に動物が出て来るが何んですか？山崎街道で勘平が撃つたもの、Aそれは犬です。途端にブー、Bしばらく考えてあッ、狸です。ブー、答えそれはシンです。えッ獅子ってライオン？いやはや恐れ入った。併し考えてみると、堀端の丸橋忠弥には犬が出る、又狐師が鉄砲で撃つたのは狸と唄にあるから、強ちその辺の推理的をはずれてもいけないが、若い人達は意外に歌舞伎の問題は不得手のようだ。（閑話休題）歌舞伎に出る馬、まづ、『一谷嫩軍記』の組討、有名な熊谷と敦盛の須磨の浦の合戦、オ、イタ々と声をかけて熊谷の馬が出る。千鳥の合方につけて海に駒を乗入れる。千鳥の合方につけて海に駒を乗入れる。今度は子役を使い、「遠近法」という歌舞伎独特の演出で、段々遠見になる。こゝ

では『ほにほろ』と呼ばれる張子の馬に跨る。～扇を上げてさし招き、しばし々と呼わったり、敵に声をかけられて何か猶予のあるべきぞ。・・・鎧の袖はひらひら々々。駒の合方が入り、～むれ入る千鳥むら千鳥、むら々々はつと引込に、よせては帰る帰りは。ハルギンヒロイ等という派手を曲節で此の辺は楽しい。

駒の合方では『絵本太功記』の妙心寺の段切も、～手綱はいくりしと々々々々乗出す駿足馬上の達者（合）轡の音は秋の野の虫にはあらでりん々々々々々。久吉討伐に向う光秀父子達の出陣の様子が華々しく曲に活かされ、わくわくしてくる。近年妙心寺の芝居はあまり演らない。次は実盛物語、此の背景には琵琶湖周辺が出てくる、本外題『源平布引滝』の三段目、前半が「かいな」後半を「綿繰馬」と義太夫では言う。元源氏の武士斎藤実盛は、今は平家に身を寄せているが、源氏の恩顧に報いようとする。太郎吉の手塚太郎に将来討たれると約して別れる。歌舞伎では段切に、実盛が太郎吉を馬に乗せ舞台を一周する。子供に對する情愛こもると幕で快い。昔の子供の遊び道具に、此の綿繰馬や竹馬がある。竹馬のメリというのは、そうした子供達の遊び場面に使われる。～はいしいどうどうお馬が

通る、先きのけ々々『恋女房染分手綱』の六ツ目の沓掛村で、五才の与之助が竹馬に跨り遊ぶ。

重の井子別れの場では、三吉とよつた与之助が、家老弥惣左衛門の赤鞘を馬に見立て、遊ぶ。『伽羅先代萩』の竹の間では、～政岡が子の千松がかいて出たる鳥かこの、エイエイサッサ愛らしき。子役大活躍である。実盛で近江近辺が出て来たので、長唄『近江のお兼』（俗に晒女ともいう。）がある。伝説として近江に大力の女がいて、あばれ馬を取り静めた、或は海津の宿の遊女おかねが、下駄ばきのまゝ暴れ馬を取り押えた等の話を近江八景を採入れ舞踊に仕立てた。あれ馬の手綱をお兼がふまえると～とめて見よならの唄になる。普通のおさらいには馬を出さず、漁師のカラミを使う。次に新歌舞伎十八番『大森彦七』がある。明治に作られた舞踊劇で、九代目团十郎の初演。偽せ狂乱をつけ加え、竹本と常磐津で踊る。太平記に題材をとつた活歴物で、七代目幸四郎の当り芸。道後左衛門が乗って来た馬を見て、「盛長が秘蔵の馬よな」「コレハシタリ大森殿拙者の逸物何んと召さる」「ナニお身様の逸物とな」「～もつ二もつ大物の、浦に漕ぐ舟エッセッセ おつらお馬が、シットン々々シットン。狂乱の振り事に掛合音楽が楽しい。紙数がつきたので此の位にして、最後に序でながら、今歌舞伎の馬の足をやる役者が幾人もいない。相当年季のいる仕事で、此れは由々しき問題であることを付加えて、此の稿を終る。

第七回心身障害児のための
慈善公演

— 決算報告 —
(昭和五十二年十二月二日)

昨年暮の第七回慈善公演は、会場もにぎわしく、好成绩をあげることができました。翌日の「お名残り公演」でもお客様各位の御協力を頂けましたこと、改めて御礼申し上げます。また会場には来られなくとも、郵便振替、現金書留等で暖いお気持ちをお寄せ下さった方々、有難う存じました。

尚、今回もプログラム・切符の印刷は、協会参与の高野俊雄様が全面的におひきうけ下さいましたことを御報告いたします。

収 入 の 部

会場募金箱 (20・21日)	五九、一一二円
当日入場料	七、〇〇〇円
出演者扱切符代	四七、二〇〇円
協会扱御寄附	二八八、九〇〇円
〈内訳〉	
土佐会様	一〇〇、〇〇〇円
東京新橋組合様	一七、〇〇〇円
新小松従業員御一同様	一五、七〇〇円
吉川大二郎様	一五、〇〇〇円
内野 正幸様	一一、〇〇〇円
菊地 秋月様	一一、〇〇〇円

小田切 一鳳様	一〇〇〇円
佐伯 勇様	一〇〇〇円
坂本 朝一様	一〇〇〇円
鈴木 一光様	一〇〇〇円
松前 重義様	一〇〇〇円
松尾 武市様	一〇〇〇円
増田 いね子様	一〇〇〇円
横山 敏雄様	一〇〇〇円
吉田 幸三郎様	一〇〇〇円
関谷 欣生様	一〇〇〇円
中村 初波奈様	一〇〇〇円
宮脇 雪むら様	一〇〇〇円
藻 汐 会様	一〇〇〇円
田 香 隆様	一〇〇〇円
和田 博様	一〇〇〇円
在原 三奈子様	一〇〇〇円
鶴沢 絃二郎様	一〇〇〇円
舞踊芸術・井上様	一〇〇〇円
合計	四〇二、二二二円

支 出 の 部

心身障害児の為の寄附金	二〇八、四六八円
本牧亭席料	四〇、〇〇〇円
通信費	四二、一四〇円
交通費	三、七三〇円
床世話・荷上げ料	二一、六〇〇円
謝礼・祝儀その他	三九、七〇〇円
総稽古諸経費	一一、四五〇円
諸雑費	三四、一二四円
合計	四〇二、二二二円
差引残	〇円

お知らせ

※ 竹本朝重 芸術祭優秀賞受賞
昨年11月8日「第16回二代目朝重リサイタル」(ガスホール)の成果により、大衆芸能部門で優秀賞受賞が決定。来る1月23日、国立教育会館で授賞式が行われる。朝重さん、おめでとー!

※ 三月歌舞伎オーストラリア公演
協会員では、竹本綾太夫、豊沢 豊緑、豊沢義三郎が出演する。

※ 千登世(竹本都喜太夫) 追善会
三月十日 日刊工業ホールで開催の予定
(お問合せは小林新吉まで
電話八七四—一六四三)

お見舞

※ 鶴沢 三生師(正会員)
十月大腿部骨折のため、名倉病院(千代田区神田駿河台四ノ二)に入院中

※ 竹本 光末師(正会員)
腹部大手術のあと自宅療養中

※ 酒井 由雄さん(床世話)
心臓病のため自宅療養中

一日も早い御快復をお祈り致します。

竹本講習について(四)

歌舞伎の養太夫Ⅱ竹本連中の
後継者養成事業

昭和五十年九月十日に発足した国立劇場に於ける竹本講習も、約二年半を迎えることになりました。しばらくこの稿をお休みをしている間に二・三の消長がありましたので、お知らせ致したいと思えます。

発足時の講習生は、清太夫・立太夫・国太夫の三人でしたが、そのうち立太夫君が諸般の事情あって昨年の一月限りで講習生を辞めることになりました。いよいよこれからという時で残念なことでしたが、彼はその後五月に大阪松竹所属の太夫(芸名学太夫)として関西で勉強することになりました。指導者難その他色々あり、頑張ってもらおう他ありません。

太夫三名が二名のみとなったところへ、中橋君という二十八才の三味線希望者がテストを受け、講習生となりました。彼は一時文楽の研修生として勉強していたこともある人ですが、三味線年令としては一寸遅いので、持前の熱心さでうんと修業して、一時も早く実戦に加わってもらいたいものです。

次に、永年竹本土佐広師の許で養太夫を習

っていた高橋君(三十九才、俳名小山月、父・母・妹・甥と皆上手な養太夫一家)が昨年六月テストを受け講習生の仲間入りをしました。次いで旧継久太夫さんという、母君が大阪の女義で、若い頃から語っていた人が加わることになり、現在太夫四名、三味線一名という陣容になったわけです。

折々舞台実習として各座に出演しておりませんが、例えばこの一月は、歌舞伎座に清太夫(吉田屋)・喜太夫(高橋君)のことで大蔵郡の檜垣の場に出演)の両君、国立劇場に国太夫・久太夫の両君が三人吉三に交互出演しています。そしてその出演の合間にも授業は行われていますので、講習生は大忙しというところ、それに加えて本年三月に、歌舞伎研修生の卒業公演の内「佐太村」の竹本を講習生が勤めることになりましたので、教師の方々、養成課御一同も正月早々フル回転をしております。卒業公演の成果に依って一部の人は講習卒業ということになると思われませんが、そうなれば誠に嬉しいことでもあります。なにしろ竹本としては始めてのことなので、しっかりとした受入れ体制を整えなければならぬと思えます。

尚、国立劇場では今春「歌舞伎第五期研修生」。「文楽第四期研修生」を募集するにあたり、同時に「竹本講習生募集」も行うことになりました。特に三味線が足りません。お心当りの方、協会まで御連絡下されば幸甚に存じます。

(以下次号)

寄贈

鶴沢新兆様
イト 多数
コマ 五ヶ
ひざゴム 四枚
木バチ 一丁

義太夫手鑑
五行本 三冊

☆ 義太夫教室等で大切に使用させて頂きました。どうも有難うございました。

住所(住居表示)変更

正会員

訃報

■ 渡辺真澄氏(賛助会員) 52年3月歿

■ 古世根(宮坂登美)氏(床世話) 52年3月26日歿

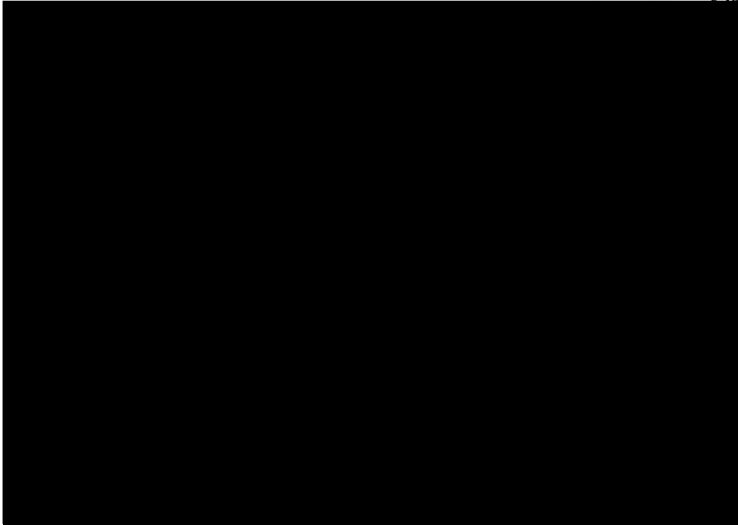
■ 千登世 竹本都喜太夫 本名中村栄一郎氏 (正会員・床世話) 52年9月2日歿

お三方の御冥福をお祈り致します。

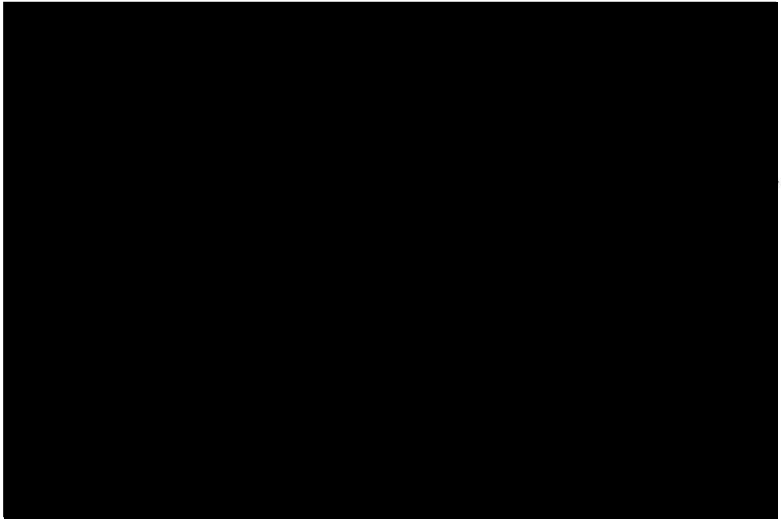
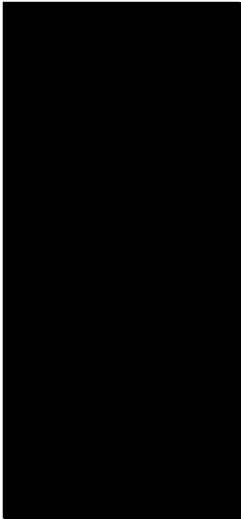
新入会員御紹介

(昭和五十二年二月以降
昭和五十三年一月現在)

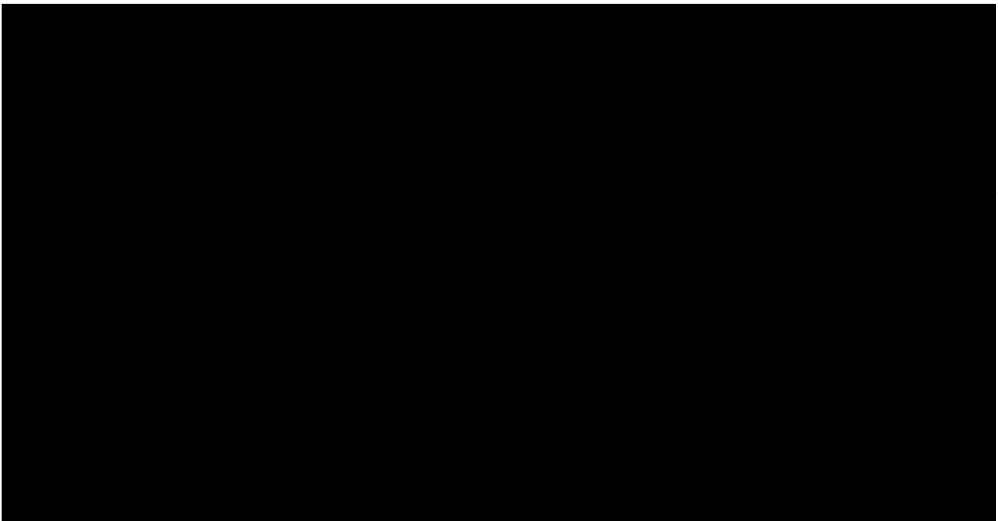
正
会
員



準
賛
助
会
員



(次頁下段へ続く)



78 都民芸術フェスティバル

第八回 邦楽演奏会

* 昭和五十三年二月五日(日)
 * 於 第一生命ホール
 * 東京都助成による特別料金 九〇〇円
 主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古曲会)
 (常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会)
 後援 東京都

第一部 (十二時半開演)

一、三 曲 松阪檢校作曲 楓の花
 二、義太夫 絵本太功記 尼ヶ崎の段

光 秀 竹 本 素 八
 十次郎 竹 本 朝 重
 初 菊 竹 本 土 佐 菊
 操 竹 本 駒 竜
 さつき 竹 本 越 道
 三味線 鶴 沢 駒 登 久

三、宮 園 節 鳥 辺 山
 四、三 曲 八 橋 檢 校 作 曲 乱 輪 舌
 五、常 磐 津 釣 女
 六、清 元 明 鳥 花 濡 衣
 七、長 唄 有 喜 大 尽

(終演予定 四時)

第二部 (四時半開演)

一、河 東 節 泰 平 住 吉 踊
 二、義太夫 三十三所花の山 壺坂寺の段

沢 市 竹 本 土 佐 広
 お 里 竹 本 春 華
 観 世 音 豊 沢 公 佳
 三味線 豊 沢 仙 広
 ツレ弾 豊 沢 公 治

三、三 曲 八 橋 檢 校 作 曲 六 段 の 調
 四、清 元 大 津 絵 座 頭
 五、常 磐 津 靱 猿
 六、三 曲 二 代 山 木 太 賀 作 曲 寿 くら べ
 七、長 唄 船 弁 慶

(終演予定 八時)

お問合せ・お申込みは事務局まで

(前頁より)

編集後記

おめでとうございます。
 本年中頃に会員名簿を発行
 したいと思ひ、調べているうちに気がついた
 ことは、昭和も五十三年となると、他の団体
 では昭和生れが勿論主流。わが協会では大正
 を越して明治生れの方々が大いに活躍してい
 る。背骨をシャンとして気が若い。昭和生れ
 の様な顔をしていられる。そこで本年は何事
 も「若々しい思考と行動」を目ざすことに決
 めました。よろしくお願ひ申し上げます。